

顔で
ワカリ
い物
ンレン

エシカルな

お買い物って

なんだらう？

Ethical



コープ商品ではじめるエシカル。

Ethical?

エシカルって

じつは、べつにあたらしいことではないんです。

安全安心、確かな品質をベースに、おいしさや便利さ、お求めやすさなどの様々な価値を持つコープ商品。その中には、購入する本人に対する価値はもちろん、他者・環境への配慮など社会に貢献する価値も持っています。

もともとコープこうべは、その前身の神戸購買組合と灘購買組合の時代から、歴史的に商品(買い物)を通じて、その時々の社会的課題に取り組んできました。

- 米、木炭などの産地直接取引
- みそ、しょうゆの自己生産
- 有害物質の排除
- 環境保全 など

そして現在も、今日的な社会的課題への対応を、公正な社会・地域・環境・人の視点ですすめています。

今、あらためて、コープ商品の持つ社会的な価値『エシカル消費』について学んで伝えていきましょう。

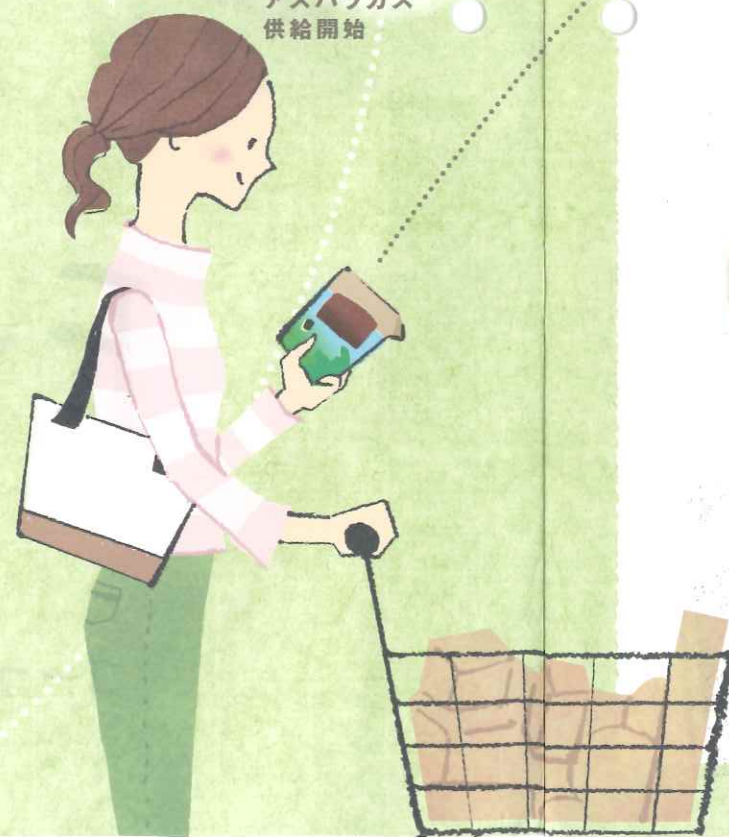
1921
米、木炭など
産地直接取引を開始

1924
みそ、しょうゆの
自己生産を開始

1959
コープ商品第1号
コープ全糖みかん缶開発

1982
コアノンロール誕生

1991
フードプラン
アスバラガス
供給開始



エシカル
とは

誰かの笑顔に つながるお買い物

ってこと

エシカルとは
「倫理的」という意味です。
エシカルなお買い物とは
地域や社会、環境や人々に
配慮して、モノやサービスを
購入することを
言います。

1 私たちのお買い物で

公正な**社会**の
仕組みが作り出せたら



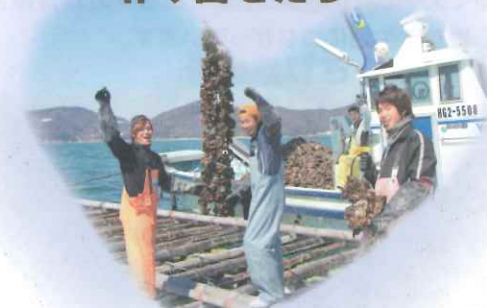
社会インフラの改善や
社会的公正の実現につながる

詳しくは
P4

- フレンドリーバナナ ●フェアトレード
- コアノンスマイルスクールプロジェクト
- CO・OP×レッドカップキャンペーン など

2 私たちのお買い物で

豊かな**地域**を
作り出せたら



地域の担い手や生産者の支援、
被災地域復興などにつながる

詳しくは
P5

- ひょうご発 ●コープの産直 ●産地指定
- とれびち・とれしゃき ●被災地応援
- メロンパン募金 など

コープこうべの4つの視点

3

私たちのお買い物で

地球**環境**を
守り続けることができたなら



持続可能な
社会づくりにつながる

詳しくは
P6-7

- フードプラン ●FSC®認証 ●MSC認証
- レインフォレスト・アライアンス認証
- リサイクル商品 ●サンゴの森づくりキャンペーン
- うなぎが育つための環境づくり支援
- コープの洗剤環境寄付キャンペーン など

4

私たちのお買い物で

人々の「生きる」を
支えることができたなら



くらしの問題の解決や
生きづらさを抱える人たちへの
支援につながる

詳しくは
P8

- ピンクリボン運動協賛キャンペーン
- コープこうべの夕食サポート「まいくる」
によるともしびボランティア募金 など

私たちのお買い物で

公正な社会の 仕組みが作り出せたら

みんなが笑顔になれるよう協同の心で

Coop's フレンドリーバナナ

生産地のフィリピン・ミンダナオ島のビスカイヤ農園では、フレンドリーバナナをつくることによりたくさんの仕事生まれ、そこで働く人々の安定収入、子どもたちへの教育機会の創出など、地域の心豊かな生活につながっています。

8億個



教育の機会を

農園で働く従業員の子どもたちを対象に、ビスカイヤ農園も会員の「バナナ輸出組合財団」の奨学金制度が設けられています。



健康に暮らすために

ビスカイヤ農園では従業員に健康診断を実施しています。また、農園の周辺で暮らす方々も無償で健康診断を受けることができます。



環境保全活動

大雨で川の氾らんによる浸水被害が起こらないよう、ビスカイヤ農園では植樹活動を実施しています。

フェア(公正)な価格で
生産者を守る
フェアトレード



発展途上国の農産物や製品などを市場の価格で買い付けるのではなく、生産者の生活が成り立つように「フェア(公正)」な価格で継続的に輸入し消費する取り組みです。



商品の一例

Co-op フェアトレード
生産農園限定
セイロン紅茶



募金 アンゴラの子どもに
「やさしい学校づくり」
コアノン スマイル
スクールプロジェクト

2017年11月1日～2018年10月31日

コアノンロール1パック購入につき1円をユニセフに寄付。寄付金はアフリカのアンゴラ共和国の子どもたちが安心して学べる環境づくりに役立てられます。

募金 飢餓で苦しむ
子どもたちに給食を
CO・OP×レッドカップ
キャンペーン

2018年10月1日～11月20日

対象となるCoop商品を買ったお買い上げいただくごとに1円を国連WFPに寄付。カンボジアの子どもたちに学校給食を届けるために使われます。



©WFP/David Longstreath

私たちのお買い物で

豊かな地域を 作り出せたら

毎日の食卓から、ひょうごを応援

「もっと地元のおいしさを食卓へ」という、組合員の声をもとに誕生。産地見学や収穫体験を通じて生産者の苦労や、想いにふれながら、食べる人・つくる人がお互いに顔の見える関係を築いています。



ひょうご発シリーズ



産地体験

田植え・田んぼの生きもの調査・稲刈りと米作りの一連の流れを親子で体験。



学習会

生産者と組合員が学びの場を通じてお互いの距離を近くします。

とれぴち・とれしゃき



地元兵庫県の魚・野菜を食べることが地元の一次産業や環境を守ることに繋がります。

「つくる人」と「たべる人」がつながる

Coop's 産直・
産地指定

Coop's 産直

産地(生産者または生産者団体)・栽培方法を明確にするとともに、定期的な産地検点、交流を通じて産地とのパートナーシップを大切に、安定的な商品供給に努めています。

商品の一例



被災地支援

募金 豊かな海をつくる
ための植樹活動
田老町漁協わかめ募金

2018年3月9日～6月21日

右記の商品1パック購入につき3円を岩手県田老町漁協に寄付。豊かな海を将来に残すための植樹活動などに活用されます。



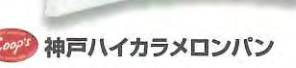
Coop's 岩手県田老の
ふ付き塩わかめ



募金 やさしい気持ちを
被災地に届けます
神戸ハイカラ
メロンパン募金

2018年9月1日～30日

神戸ハイカラメロンパン1個購入につき1円(ミニは2円)を被災地応援に。2018年度も、みやぎ生協の産直ブランド「めぐみ野」の生産者に寄付を予定しています。



Coop's 神戸ハイカラメロンパン

私たちのお買い物で

地球環境を守り続ける ことができれば

「美ら海」からのおくりもの

Coop's 太もずく・糸もずく 2018年8月1日～10月31日

コープこうべは、もずくの出産地である沖縄県恩納村のサンゴ礁を守る活動に賛同。1パックのご利用(夏季シーズン)につき1円を、「サンゴの森づくり資金」として恩納村漁協にお渡しする活動を2011年より続けています。



サンゴの土台をセットするダイバー

学習活動

2016年3月には小中学生21人が、平和の尊さ、沖縄の産業と環境との共生について学ぶことを目的に、コープ虹っ子平和スタディツアーに参加。コープもずくの出産地である恩納村では、サンゴの土台づくりや生産者との交流を通じ、沖縄の里海づくりと育てる漁業について学びました。



うなぎが育つための 環境づくりを支援 うなぎの資源保護募金

2018年4月20日～9月2日

絶滅が危惧されているうなぎの資源保護・増殖の取り組みに賛同。コープ商品のうなぎ1パック購入につき3円が「鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会」に寄付され、河川整備の研究や、うなぎのすみかとなる石倉かごの設置、放流を効果的にするための研究や親うなぎの採取制限などに役立てられます。



石倉かごの設置の様子

持続可能なパーム油の 生産を支援 コープの洗剤 環境寄付キャンペーン

2018年5月21日～2019年5月20日

コープの衣料洗剤の対象商品を1品購入ごとに、0.5円をWWF(世界自然保護基金)ジャパンへ寄付。コープ洗剤にも使われているパーム油の原料である、アブラヤシをつくるインドネシア西カリマンタン州の小規模農園の、持続可能な生産を支援。生産者の労働環境の向上を通じて森林破壊の防止に役立てられます。



©WWFジャパン



海の資源を守る MSC認証

MSC(Marine Stewardship Council 海洋管理協議会)は、持続可能な漁業を推奨する独立した非営利団体で1997年に設立されました。漁業の方法を変化させ、魚種資源の減少から増加への転換、漁業者の生計維持、世界の海洋環境の保護などを目的としています。

商品の一例



CO-OP 骨取りさばの味噌煮

森の資源を守る FSC®認証

FSC(Forest Stewardship Council®、森林管理協議会)は、責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする、独立した非営利団体で、国際的な森林認証制度を運営しています。適切に管理された木材とその製品を確実に消費者に届けることで、森林資源の保全を消費者が支えるしくみを作っています。



責任ある森林管理のマーク

商品の一例



CO-OP ティッシュ

人と自然にやさしい 食べものづくり フードプラン



消費者、生産者、そして自然環境にやさしい食べものづくりをめざして1988年に取り組みをスタート。野菜・果物から魚、肉、そして加工品まで幅広い商品群で食卓のニーズにお応えしています。

食べる人・つくる人にも安全

●できるだけ農薬を使わずに

目指すは、食べる人はもちろん、生産者にもやさしい食べものづくり。そのため、農薬をできるだけ使わず育てています。たとえば黄金しょうがでは防虫ネットや黄色防虫灯などで、害虫を寄せつけない工夫をして農薬の使用回数を一般栽培の半分以下にしています。



(一部の圃場)

つくる人、育て方が見える

「いつ・どこで・どのように」作ったか、記録を遡って特定できるしくみを確立。生産者と組合員との交流を深める取り組みも実施しています。



環境・自然にやさしい商品づくり

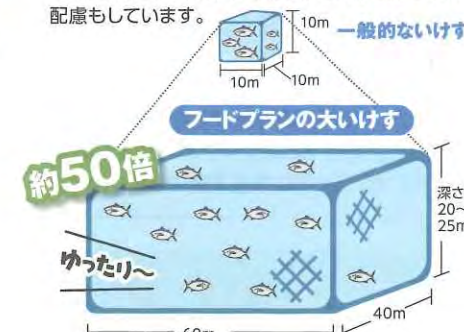
●有機質主体の土づくり

生産者を限定し、牛が食べる牧草づくりだけでなく、その牧草を育てる土にまでこだわり「酪農の循環サイクル」を実現。



●ひろびろ・のびのび

水・畜産品の飼育環境も一般と比べ広めに設定し、できるだけ自然に近い環境でのびのびとすくやかに育てています。たとえば大いけす育苗では一般的ないけすの約50倍という大いけすで薄飼い。さらに、流出しにくい餌を選定し、食べきれない量の(はら八分目)を与えるなど、海を汚さない配慮もしています。



熱帯の森と人を守る レインフォレスト・ アライアンス認証

森林伐採の70%が農地拡大に影響を及ぼしている状況を受け、レインフォレスト・アライアンスは、地球環境保全のために熱帯雨林を維持することを目的として設立された国際的な非営利団体です。農園の「環境・社会・経済」3つの持続可能性を向上していきます。

商品の一例

CO-OP 紅茶ティーバッグ
(セイロン茶葉100%使用)



オーガニック 有機JASマーク



オーガニックとは「有機」や「有機栽培」のこと。農薬や化学肥料に頼らずに土壌の力を生かし、環境の負荷をできるだけ少なくする農法のことです。日本ではJAS規格による登録認定機関の認証を受けた商品だけが有機JASマークをつけ、「有機」と表示することができます。日本生協連では、こうした「有機」の認証を受けた農産物や畜産物を原料として使用した商品をオーガニックシリーズとして、ご案内しています。

商品の一例



CO-OP オーガニック
有機栽培ブルーベリー

地球を気づかう お買いもの エコマーク



生産から廃棄まで環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品に付与。

商品の一例



CO-OP グリーンキーパー
コンパクトティッシュ

私たちのお買い物で

人々の「生きる」を支えることができれば



募金

「まいくる」1食あたり0.5円を、 社会貢献活動へ 地域のボランティア活動を応援

ひとり暮らしの高齢者や共働き、子育て世帯の方などを対象に、栄養バランスを考えた食事をお届けする夕食サポート「まいくる」。「まいくる」は、1食あたり0.5円を社会貢献活動に還元する取り組みを実施。兵庫県でのご利用分を「(公財) コープともしびボランティア振興財団」に、大阪府でのご利用分を「ともしびボランティア拠金」に寄付し、様々なボランティア活動支援に活用されています。



たとえば
視覚障がいの方の
伴走歩で共にスポーツ
を楽しみます。
『ひようご伴走歩協会』
への支援に

募金

知ることでする明日があります ピンクリボン運動協賛キャンペーン

2018年10月1日～11月20日

コープ化粧品シリーズの対象品1品購入ごとに1円を、認定NPO法人J. POSH (日本乳がんピンクリボン運動) へ寄付。『乳がんに対する啓発と患者・家族の支援』に役立てられます。

2017年度コープ化粧品が生まれて40周年を機に「ピンクリボン運動」に取り組みました。2018年度も世界共通のピンクリボン月間である10月に合わせ、コープ化粧品で寄付を行います。



商品の一例

CO-OP
フリーリア
シリーズ



CO-OP
コープ
基礎シリーズ



だれかの笑顔のために

一人では出来ないことも、みんなで力を合わせると、実現することができるかもしれません。

その積み重ねで、やがて、ともに地球で生きる仲間たちをしあわせにすることができたら……。

私たちの願いが、世界のだれかの笑顔につながると信じて、これからもコープこうべは「エシカル」活動に取り組んでまいります。



発行:コープこうべ商品開発室 2018年

エスディーズ

コープこうべとSDGs

コープこうべが大切にしている

「一人は万人のために、万人は一人のために」という精神は、
SDGsが目指す「誰一人取り残さない」という精神と相通じるものです。

これまで組合員の皆さんとともに持続可能な社会の実現に向け、
環境問題をはじめ様々な取り組みを進めてきました。

例えば…



教え合いの学習活動

1924年、主婦を中心とする組合員で結成された「家庭会」は、女性の参政権すらなかった時代に画期的な組織でした。



マイバッグ運動

1978年、資源の有効利用とゴミ削減のためにスタートした「買い物袋再利用活動」が出发点。



くらしの助け合いの会

1983年、「住み慣れた地域で安心して老後もくらしたい」「少し手助けがあれば自立して生活できるのに…」こんな声から始まった会員同士の助け合い、支え合いの活動です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



「誰一人取り残さない」



「一人は万人のために、
万人は一人のために」

取り組むテーマは時代時代で変化してきましたが、
あらためて生協の事業や活動を振り返ってみると、
このSDGsの枠組みと軌を一にする取り組みが数多くみられます。